



京都市六原まちづくり委員会  
委員長 菅谷 幸弘

## 1 歴史ある街が抱える防災事情

京都の観光名所でもある清水寺と鴨川の間には六原学区があります。学区内には、昔ながらの京町家や路地、寺社仏閣などが数多く残り、風情ある京都らしい歴史的な街並みを有しています。一方で、学区内には狭い路地や袋小路、古い木造住宅が多く、公園や広場等が少ないなど、密集市街地としての防災上の課題を抱えています。地震などの災害時には建物の倒壊や火災の発生など、被害が甚大になるおそれがあります。



六原学区

## 2 自分たちのまちを歩いて 見つけよう、防災の課題

六原まちづくり委員会では、毎年、地域住民と一緒に防災まち歩きを行っています。その際には、専門家、行政、支援組織にも声をかけ、一緒に歩くことで、あらゆる視点から防災上の課題を見つけ、解決できるように進めています。この防災まち歩きをきっかけに、路地の2方向避難の確保に向けた「緊急避難扉」の設

置や「トンネル路地の耐震化」を行ってきました。



トンネル路地の耐震化



設置前



緊急避難扉（設置後）

## 3 名もなき路地に名称を

六原学区には約 90 の路地が存在しますが、そのほとんどには、名前がついていませんでした。そこで、災害時の避難や情報の伝達、救助活動に役立てるため、各路地に名前をつけ、銘板を作成・設置しました。路地の名前は「袋路＝〇〇路地」「二方向避難可＝〇〇小路」として統一し、避難路の認識性向上を図っています。各路地の名前は町内会長が考えて決定しま

した。路地の銘板は清水焼で出来ています。六原学区に在住の陶芸家に製作してもらいました。

また、消防署や警察署に路地名を提供することで、通報時に場所をすぐ特定することができ、住所説明の短縮化にもつながりました。



路地の銘板は清水焼



路地の入口に銘板

#### 4 路地からつながる、防災マップで広がる地域防災

路地名を決めましたが、この新しい路地名を次の防災の取組として、活用していくことが出来ないか考えました。そこで、まず地域の方に、六原学区内にある路地の存在を知り、身近に感じてもらうことが必要だと考えました。そこで、最新の防災マップを作成して各戸に配布することにしました。新しい防災マップの

作成に当たり、地域の町内会長や防災部長を集めてワークショップを行い、意見を取りまとめました。誰でも見やすいように、文字を大きくして、必要な情報量をまとめたりして簡潔にしました。災害時、より役に立つ防災マップとして、地域の集合場所や避難場所、AEDの設置箇所が記載されています。



新しい防災マップの作成

#### 5 横一線の連携体制

六原まちづくり委員会では、「住んでいてよかった、これからも住みつづけたいまち」をスローガンに掲げ、地域や専門家、行政や支援組織と横一線の連携体制をとり、防災のためのまちづくり活動を進めています。活動を進めるうえで以下の内容を心がけています。

- ・常に、地域でできることは地域で
- ・地域でできないことは外部の専門家とともに
- ・一つの専門性で対処できないことは他の専門家とともに

これが六原流です。まず自分たちの地域でやってみる。足りないところを専門家とともに進めていきます。常に人間関係を大切にしながら、六原のまちづくり活動は、一過性で終わらせない、息の長い取組として進めています。